

## 令和4年度第1回広島市スポーツ推進審議会 会議録

### 1 開催日時

令和4年8月24日（水） 10時00分～11時30分

### 2 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員 20名中18名出席

飯富委員、伊藤委員、木村委員、齋木委員、下岡委員、砂橋委員、高畑委員、  
田川委員、玉田委員、出口委員、中島委員、中村委員、仁井委員、西野委員、  
服部委員、麓委員、松田委員、渡部委員

（欠席：大前委員、本川委員）

#### (2) オブザーバー 3名中2名出席

野上オブザーバー、花口オブザーバー

（欠席：野依オブザーバー）

#### (3) 事務局（市）

市民局長、スポーツ振興課長、健康福祉局障害福祉課長、健康福祉局健康推進課  
長、教育委員会指導第一課長、教育委員会指導第二課長

### 4 公開・非公開の別

公開

### 5 傍聴者

0人

### 6 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 市民局長あいさつ

#### (3) 議事

ア 令和3年度の主なスポーツ推進施策の取組状況について

イ 令和4年度の主なスポーツ推進施策及び予算について

ウ その他

#### (4) 閉会

### 7 会議資料

- ・ 令和4年度第1回広島市スポーツ推進審議会次第
- ・ 広島市スポーツ推進審議会委員等名簿

- ・ 議事関係資料

議事資料 1-1 : 「広島市スポーツ振興のための取組」に掲げた推進施策の主な取組状況について (令和3年度)

議事資料 1-2 : 数値目標の進捗状況と今後の方向性について

議事資料 2-1 : 「広島市スポーツ振興のための取組」における令和4年度の主な取組について

議事資料 2-2 : 令和4年度スポーツ振興関係予算について

参考資料 : 広島市スポーツ振興のための取組

## 8 主な発言要旨

### ○ 服部会長

令和3年度は随分コロナの影響で事業が中止された。

令和3年度はオリンピック関連対応のための予算、今年度令和4年度には施設整備の方で随分予算の方を使っている、というような状況になっている。

今年第3期のスポーツ基本計画が発表されて、市民局長さんの方からも話があったが、スポーツをつくる、育むとか共に繋がる、誰もがアクセスできるというような観点が付け加えられている。またスポーツ庁の方からも部活動の地域移行、総合型地域スポーツクラブや民間の事業者の方と学校とのコーディネーターの役割をおそらく自治体の方に求められるという体制づくりが今後求められていくのではないかと思う。

### ○ 出口委員

今年度の取組について、昨年度と比べて特に特化してこれをやったというものがあれば教えていただきたい。ほぼ昨年と同じような事業だと思うが、特にここに力を入れたというものがあれば教えていただきたい。これは要望だが、どういう事業を何回やったという報告も非常にありがたいが、例えばそこでの成果、あるいは参加された方の反応みたいなのが聞ければもっと内容がイメージできると思うので、そのあたりをもし分かれば教えてほしい。

### ○ 三原スポーツ振興課長

令和4年度特に力を入れるものになるが、まずハード面でいくと、広島西飛行場跡地へのスポーツ広場を今年度から着工し、工事を進める中でいろいろな検討事項が出てきているが、令和5年度に供用開始できるように取り組んでいる。また吉島屋内プールの建替えに関しても、より良いものを造るということで地元との協議を重ねて、力を入れているところである。ソフト面に関しては、資料の10ページで説明したが、ハンザクラスパラワールドセーリング選手権、スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム広島、共通項として障害のある方、知的障害であったり身体障害があったり、そういう方々が参加するイベントで、そこに我々は実行委員会として参加して、ふるさと納税等を使って財政的な支援をしている。共生社会が言われている中でこういう障害を持っている方が参加する大会を支援することは大変有意義なことなので注力している。

各事業の成果や実際に参加している方の反応については、事業によってはアンケートを取っている。毎年やる事業であれば、そのアンケートを踏まえ、次の事業に生かしている。今回は、資料のボリュームがかなりあって、皆さんに御紹介するのがなかなか難しかったが、今後は特徴的な意見だとか、寄せられた意見をどういう風に反映させたか、説明していきたいと思う。

#### ○ 出口委員

取り組んでいる事業のハード面だったり、あるいは大会の援助みたいなものは非常に重要だと思うが、先ほどからいろいろ課題を挙げられている、例えばジュニアの育成であったり、スポーツをもっと振興するような、そういったことに対する具体的な取組が、あまり例年変わっていないのでは。むしろその辺を、ここで新しいことをやるとか、そこに注力するというのを考えていく必要があるのではないか。もう少しソフト面での予算の積み上げみたいなものがあれば、中身が変わってくると思うので、その辺は、今後やっていただければありがたい。

あと、数値目標がいきなり出てくるが、この事業に対してどういう成果があったかということがあって、この数値目標が何%満たされているかということになると思う。この間のプロセスがなかなか見えてこないのも、簡単でよいので資料に載せてほしい。来年度以降分かれば、もう少し具体的にどこに力を入れなければならないということが見えてくると思う。

#### ○ 三原スポーツ振興課長

ジュニアの育成であるとか、例年やっているものをより良いものにして、必要があればソフトを充実させたり、拡充したり、あとはそれに伴って予算を拡充するというのは、十分あり得ることだと思うので研究していきたい。

また、数値目標が実際の取組によりどれだけ達成できているかというところは非常に重要な視点だと思うので、そこは分析をしていきたいと思う。

実際に今回数値目標を立てる中で、コロナの影響がかなり出ているが、最近、コロナの感染者数は増えているが、スポーツの大会は中止されることもなくなってきているので、そこも含め、今後数値目標を意識しながら、どういう取組ができるかということを考えていきたいと思う。

#### ○ 麓委員

4ページに関係するところについて、週1回以上スポーツをする市民の割合の調査で、週1回未満の方のスポーツの実施を妨げている理由のうち、最も高い多いのが「時間がない」で、というところが、ほぼ全世代に共通している。運動ができれば、そこから切り口としてスポーツは楽しい、やりたいというふうにならなっていくと思うので、時間が取れない方に対しては、この時代 SNS や YouTube 等インターネットというものが主流になっていると思うので、その人たちのニーズに合ったものを提供するというのがベストな解消法だと思う。YouTube を開設して、そこで運動指導やコロナでイベントが打て

ないときは、イベントをネット上で行うとか、そういう風にシフトしていく。そうしたら予算とかも大分削れたり、YouTube で収益も出たりする。今後はコロナに限らず求められてくると思うので、検討していただきたい。

○ 三原スポーツ振興課長

コロナで中止になるというのは、集まることに対して抵抗があるということなので、SNS とか YouTube で発信して、各自で運動できるのは新しい視点かもしれないので、そこは勉強したいと思う。

○ 西野委員

先ほどのアンケート結果のところ、運動されない方の運動を妨げる要因というところで、何をしたいか分からないという方もおられるのではないかと思います。例えばスポーツというと、バレーをしたりテニスをしたりということもあるが、ウォーキングやマラソンをしている方も最近は見えるようになった。大きな運動ではないが、ちょっとした運動をすることで、スポーツをするきっかけ、運動、体を動かすというきっかけにもなるのではないかと思います。

先ほど、麓委員がおっしゃられたように、今の時代の SNS の活用というのが重要とされていて、体力づくりというところに関して、いろんな大きな運動、スポーツでなくても、きっかけ作りを分かりやすく示すことがいいのではないかと思います。例えば、今日はエレベーター使わずに階段を使ったということでアプリでポイントが入れられるようになったりとか、遊びながらできればと思う。今、世の中は SDGs の取組がいろいろあり、運動・スポーツの活動の仕方とかいろんなやり方があるのではと知っている。

○ 三原スポーツ振興課長

先ほどの「何をしたいか分からない」というのは、麓委員の SNS での発信の提案と親和性があり、検討していききたいと思う。普段の行動の中に体力づくりを入れ込むというのは取り組みやすいと思う。スポーツ、運動というのはいろいろな効果があり、健康づくりだけでなく、コミュニティづくりだとか仲間づくりだとかにも役に立つ。アプリについて、スポーツレクリエーションフェスティバルを今年10月に開催するが、専用アプリでウォーキングの距離を競ったりするだとか、そういうイベントが行われる。活用できるように PR し、関係団体と連携しながら取り組んでいきたい。

○ 濱井健康推進課長

今、ウォーキングのアプリの話があったので、健康推進課での取組を紹介したい。

健康推進課で健康ウォーキング認定制度を設けており、ウォーキングチャレンジャー、ウォーキングマスター、ウォーキンググランドマスターの3つに区分し、ウォーキングチャレンジャーはウォーキングを3か月間継続された方、ウォーキングマスターは広島から東京間、これが894.2kmになるが、この距離を歩いた方。そしてウォーキングマスターグランドマスターは、広島市から北広島市、これは北海道にあるが、2,090.7kmの

距離を歩いた方。これで認定させていただく制度で、実は広島広域都市圏ポイントと連携し、ウォーキングマスターになった場合は50ポイント、グランドマスターになった場合は250ポイント、ポイントをプレゼントしている。取り組んでいただいている方には、北広島町に到達することを目指して日々歩いていただいて、その距離で認定をさせていただくという事業もやっているのです、是非このスポーツのイベント等々に参加するのと併せて、日常のウォーキングの際には、この制度も活用してほしいと思っている。

○ 服部会長

スポーツ基本法の中でも、スポーツは我々の権利であるという権利条項が日本でもやっと含まれるようになり、その中で、時間がなくなることに関して、ちょっともったいないとか、せつかくの権利なので、是非ともこういった情報発信の仕方等、実際にYouTubeの話もあったが、工夫してこうしたウォーキング事業等、どんどん発信していただければと思う。

○ 松田委員

スポーツをするということであったり、見るであったり、正直、10代の子供が「興味がない」というのはショックだ。未来を担う若い世代が、いろいろな娯楽が多様化しているので、スポーツだけでは当然ないが、これだけスポーツのプロや実業団のチームがたくさんあるのは、大都市でも広島くらいしかないくらい、恵まれたところにありながら、なかなかそこに興味を持っていないという部分はやっぱり大きな課題だと思う。

トップスとしても、カープ、サンフレ、ドラフラというところは、集客をある程度ががんばっていらっしゃるけれども、それ以外のハンドボールのチーム、NTTのソフトテニス、バドミントンは、がんばっているけれども、なかなか試合会場に足を運んでいただけない。例えば、こちらの別紙は3の方に「国際的・全国的なスポーツ大会等」ということで、全国大会の誘致みたいなものに向けて広島市だけではなくて、県も巻き込まないとこれは難しいと思うが、お尋ねしたいのは、そもそも全国大会の誘致を積極的にしようとお考えなのか。メジャーじゃないかもしれないけれど、行ってみればものすごくおもしろい、わくわくする、興奮する、それがやってみようという契機になることもたくさんあるので、全国大会の誘致みたいなものに向けて積極的に考えていらっしゃるのかどうか、いやそこまではということなのか、考えを聞かせてほしい。

○ 三原スポーツ振興課長

国際的・全国的なスポーツに関しては、機会があれば積極的にやっていきたいと思っている。しかし、実際誘致するとき何が重要かというのは、どの大会をどういうふうにして誘致するか、機運も必要だ。例えば広島市だけがこれを誘致したらいいというのではなくて、その競技団体であるとか関係者とかみんな誘致しようという一体感がないとなかなか誘致は難しいと思う。そういう機運の醸成というのが大会誘致には重要であり、チャンスがあれば掴んでいきたい。

○ 服部会長

いろいろな種目の大会誘致ができれば、活気につながると思う。

○ 砂橋委員

冒頭で出口委員からとても素晴らしい御意見を拝聴し、まさにこれ企業においても、もっともな方法と思う。数値目標があって、具体的に何を取り組むかということが抜けている。新しい何かをどうするか、多分それがこの意見交換じゃないかと思う。

そういった観点から、情報提供させていただきたい。広島のリクリエーション協会は、ナショナルセンターとも繋がっており、教育委員会指導第一課、二課に日本リクリエーション協会の取組を提案したことがある。内容は、指導者を派遣して、学校でスポーツリクリエーションのクラブを展開できないかということである。費用は日本リクリエーション協会が負担する。これを提案した翌日にコロナで学校が休校ということになって、実施に至らなかった。ナショナルセンターはいろんな活動をしている中で、今学校の中にいろんな指導者を派遣するということが学校も困っているということがあるし、お互い思いはあるが、なかなかそれをコーディネートする場がない。

先般、私も広島市の社会教育委員として、今回会議をさせていただいたが、全国的にも社会教育委員もそういう場は持っているが、学校教育でなかなかそういう場がなく、どうしようか、というところで終わっている。部門が違う、所管が違うということがあるのか分からないが、いろいろなところで動いている私にしてみれば、惜しいと思う。お金を使わず、良質な指導者を発見しなくてはいけないので、そこは信頼できる団体とどういう連携を取るかということだと思うので、お金と人とあとは双方の合意ができれば、いい場ができるんじゃないか。もう一つはカリキュラムの中で、高校生であるが、これは宣伝になるが、リクリエーションのインストラクターというのを学校の高校のカリキュラムで入れているというところもあり、スポーツをするのではなく、指導するかまとめるとかいろんなことで勉強ができるというパッケージがあるので、そういった情報を元に選択されたらいいと思う。多分ほかの委員の皆さんも、そういった場とか情報をお持ちだと思うので、こういった場でどんどん言って、選択をされたらいいと思うが、そもそもの発端は出口委員がおっしゃった具体的な施策がないと進まないんじゃないかというのが私の意見である。

○ 三原スポーツ振興課長

数値目標を達成するために、具体的な取組が重要というのは、おっしゃるとおりである。同じ取組を続けても数値は上がらない。数値目標を達成するためには、プラスアルファ、何かやっていくことが重要である。それとリクリエーションのインストラクターの話について、松田委員が言われた興味がないというのがショックだったということとちょっと関係していると思う。スポーツは、勝負になると厳しいものだが、楽しいところから入るのが非常に重要と思う。スポーツの入口としてリクリエーションインストラクターの方が指導していただけるというのはいいと感じている。

○ 出口委員

カテゴリーとしてはスポーツレクリエーションというので、一体となったことはあるか。

○ 砂橋委員

ある。

○ 服部会長

手前味噌ではあるがうちの学生も今レクリエーションインストラクターとか、そういった資格取得に向けて希望者も随分多いので、そういった若手がどんどん社会に出て活躍してくれればと思う。

○ 三原スポーツ振興課長

勉強不足で申し訳ないが、レクリエーションインストラクターとは、具体的にはどんなところをインストラクトされるのか。

○ 砂橋委員

レクリエーションインストラクターというのは、資格を取るために、学科が10コマ、残りが30コマか何かあって、60時間となるが、何を勉強するかというと、レクリエーションはなぜするのか、それからレクリエーションを指導する上でのインストラクションの心構え、それからリスクマネジメントとか、組織をどうするかといった内容だ。大学ではカリキュラムとして教えているが、レクリエーションという言葉に対応する日本語が実はない。今やっているのは生きる喜びづくりというのがキーワードだ。学童のレクリエーション、それから福祉施設のレクリエーション、企業のレクリエーションなどいろいろ分野がある中のそういった指導をしているということで、今は大きく分けてスポーツレク、スポーツの世界のレクリエーションと、学校のレクリエーションと、福祉のレクリエーションというので、インストラクターというのはそういう資格はあるが、その前段階のレクリエーションサポーターという研修を実はしている。これは分かりやすくするもので、3時間というのがあるが、実は広島市から予算いただいたものを、あちらにも会場いらっしゃるが、スポーツ推進委員さんにも。この来年の2月、そのスポーツレクリエーションサポーターの研修をやっていただくということで今やっているが、インターネットで御覧いただくと日本レクリエーション協会の中に協力体制とかどんなことをするかとか、どういう資格があったとかも書いてあるので、御覧いただいたらと思う。

○ 渡部委員

国際大会の招致というかたちで、障害者のスポーツについても、力を入れられているということをおっしゃっていただいて、大変に心強い。

障害者のスポーツは道具が必要で、どこに行ったらそういう道具があるのか、どこで

できるのかとかということをはなかなか周知できないという状況がある。広島市心身障害者福祉センターでは、障害者のスポーツ用具をかなり揃えており、国からの補助金により道具整備が進んできている。それを貸し出したり、当センターの職員がスポーツ振興とか、地域支援とかいう形で、学校や地域に出向いてスポーツ教室を行う予定もあるので、そちらをうまく活用して、障害者のスポーツの振興にも繋げていただければありがたい。

○ 三原スポーツ振興課長

障害にはいろいろな程度があって、自分の障害だったら、どこに行けばどんなスポーツができるのか、どこのスポーツ教室入れるだとか、いろいろあると思う。そういうところを分かりやすくPRというか、情報提供できたらと思っているところである。

本市には障害福祉課とスポーツ振興課があり、連携を取っていきたいと思っている。

○ 出口委員

ちなみに今度新しく準備されているスポーツ施設、吉島プールともう一つの多目的広場について、障害者向けの施設とか、そういったことは考えられているのか。

○ 三原スポーツ振興課長

吉島プールに関しては、障害者専用と考えられるのかどうかというのはあるが、多目的プールは、プール底の高さを上下することができるらしく、浅いところでないと活動できない人のためであれば、プール底を上げて対応できる。

○ 出口委員

私は去年この会議で、いろいろな予算の中で障害者スポーツに対する、もうちょっと手厚くやってもいいんじゃないかということをご提案させていただいて、今年障害者の指導、そういうのがここに出ていたので多少反映されているのかと思ったが、こういう新しい施設に対して、もし障害者スポーツに手厚くしていくというような考えがあるのであれば、そのへんも考えて、新しい施設を造っていただきたいし、今話をされた関係者の方と施設づくりに関わっていくことが今後可能であれば、せっかく新しく造るのであれば、共生社会ということを目指すのであればそれをやるべきだと思うので、是非御検討いただきたい。

○ 三原スポーツ振興課長

そこは意識してやっていきたいと思っている。

○ 服部委員長

次にその他、広島市スポーツ振興の取組やスポーツ全般に関することについて、スポーツ振興の成果を上げていくために、いろいろな意見を賜りたいと思う。今、出口委員からもからもいろいろな提案があったが、その他に1、2に関わらず、意見等を出して



いただければと思う。

○ 麓委員

5ページの運動やスポーツが好きな児童の割合について、小学生と中学生で、現状分析と今後の方向性に、体育の授業がうまくできないとか、小学校前から体を動かすのが苦手、あと怪我をするのが怖いと書いてあるが、前年度と今年度で行った活動の違いやアプローチの仕方や変わったところがあれば具体的に教えてほしい。

○ 高田指導第一課長

この全国調査自体は、コロナ禍で1回中止になったが、毎年行われており、調査の結果を踏まえ、毎年、各学校がそれぞれの学校の実態に応じて課題を見つけ、取組を考えているので、広島市として、前年度がこうだったので今年はこうしましたというものにはなりにくい。各学校において、一例を挙げると、経常的に悪い数値が出るのが20mシャトルランといって、全身持久力を測るものであるが、これほどこの学校も、比較的よくないが、そこについて持久力を上げる取組として、学校はすごく熱心に取組を考えており、例えば5分10分でできる縄跳び運動を音楽付きで動画で作って、それを全ての子供達が先生の指導に寄らず、同じようにできる方法を考え、継続的にやっているところがあり、そこは成果が実際に上がって、20mシャトルランの数値も向上したという報告を受けている。各学校において、毎年毎年の結果を受けて取組を考えている。そこは丁寧に各学校が進めている。

○ 服部会長

今の話でいくと、今度文科省の方が、小学校高学年には体育専科の教員を配置できるというような流れにもなっている。理科等の専門科目と同じように、体育も専門の教員が小学校で教えるというような体制づくりが進んでいるので、小学校での体育の専門授業というか、もっと専門の教員が教えられる場面というのがこれから多分出てくるのではないかと、それによってもっとスポーツ好きの子供たちがどんどんできればと願っている。

本日審議の中で議論いただいたことも含めて意見、提案などがあれば今月中に事務局の方までお寄せいただければと思う。本日の審議会は以上で終了する。ありがとうございました。